

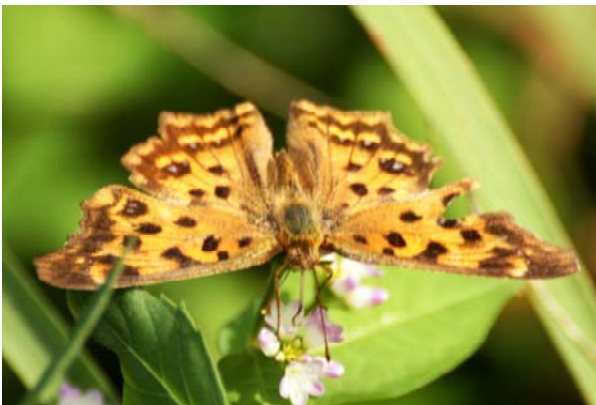
牛久：学校周辺に見る自然

第27号 みずべ公園(ひたち野うしく小)

2016年10月12日発行

＜ 動物のすみか ～ ③ 成虫で冬を越すチョウたち ＞

こんにちは。9/27, 10/4にひたち野うしく小3年生と歩いたみずべ公園、今回はチョウとしては少数派の、成虫で冬を越すなかまを紹介しましょう。



ハッカの蜜を吸う、キタテハ(上)。羽を閉じると枯れ葉と区別しにくい。

左はミゾソバの蜜を吸っている。羽を開くと、めだつもよう。

タテハチョウ科のなかまでは、写真のキタテハやアカタテハ、ルリタテハなどが、成虫で冬ごしすることでよく知られています。でも、羽を閉じると色やもようが落ち葉と区別しにくいですね。しかもそれじつとして動かなければ、なかなか気づくこともできないでしょう。



同じタテハチョウ科ですがジャノメチョウのなかまのクロコノマチョウも成虫で越冬します。このチョウはもともと南の地方のチョウだと、第20号でも紹介しました。

羽を休める、クロコノマチョウ。

南の地方から分布を広げてきたチョウ。

これも枯れ葉と区別しにくい。



モンシロチョウなどと同じシロチョウ科のキタキチョウ。
マルバハギ(上)とコセンダングサ(左)の蜜を吸っていた。

同じシロチョウ科のモンシロチョウやモンキチョウはさなぎで冬を越しますが、このキタキチョウは成虫で越冬します。みずべ公園でもま冬の陽ざしの暖かい日に、落ち葉のつもった林の地面すれすれに力なくゆらゆらと飛んでいるのを見たことがあります。

ウラギンシジミも成虫越冬。冬にはヒサカキなど常緑樹の葉の裏でじっとしています。1ヶ月も同じ葉にとまっていたという記録もありますが、私の観察では暖かい日には同じ木の中などで少しずつ移動することもあるようです。羽の裏が白銀色なので「裏銀(うらぎん)」ですが、表側はおすではオレンジ色、めすでは青白色のもようがあります。写真はおすでした。このチョウが花の蜜を吸っているところを私は見たことがないのですが、皆さんはいかがですか？タテハチョウのなかまにも多いですが、このチョウも腐った果実や獣糞、死がいなどに来て、その汁を吸うそうです。写真のチョウは、獣糞を吸っているツマグロヒョウモンのすぐ近くにいました。おおぜいで観察していたので警戒してはなれていたのでしょうか。右の写真では泥水を吸い、ミネラルや水分を補給しています。【理科支援員:宮内】



羽の裏が白銀色のウラギンシジミ。腐った果実や獣糞などを吸うそうだが、右の写真では泥水を吸いミネラル補給。